

[年度] 平成26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 森林地域におけるニホンジカの生態調査に基づく効率的捕獲技術

[要約] 西牟婁地域では、ライトセンサスによりシカは新植地に集まる傾向があることから、新植地に隣接する林道や土場を利用して、4×4mの囲いワナを設置し、ヘイキューブによる十分な餌付けを行うことで捕獲を行うことができる。

[キーワード] ニホンジカ、ライトセンサス、餌付け、捕獲、囲いワナ

[担当機関] 林業試験場 経営環境部

[連絡先] 電話 0739-47-2468

[専門分野] 林業

[分類] 普及

[背景・ねらい]

ニホンジカ（以下シカ）による農林業被害対策の一環として、捕獲により頭数を大幅に減少することが和歌山県特定鳥獣保護管理計画に記載されているものの、銃猟者の減少は避けられない状況下にある。そのため、銃に依存しないシカの効率的な捕獲技術を早急に開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 西牟婁地域においてライトセンサスを実施した結果、シカは夜間に新植地・河川敷に集まっていることから、森林地域における捕獲場所は新植地が効率的である（図1）。
2. 飼料のヘイキューブ（牧草を押し固めたもの）はシカの嗜好性が高く、誘引エサに適する。
3. 出没するシカの集団は、ほとんどが3～4頭と小規模であり（図2）、捕獲には4×4m程度の囲いワナが適している。
4. 囲いワナ内に、シカが複数頭入り誘引エサを食べ続けるまで十分に餌付けできていることをセンサーカメラ等で確認した後、捕獲を開始することで、シカ捕獲後も再び囲いワナ内にシカが入ることから、同じ場所で続けて捕獲できる。

[成果の活用面・留意点]

1. ニホンジカの生態は地域性が強く、和歌山県内でも地域によって食性や集団規模が異なるため、捕獲に際してはライトセンサスや予備的な餌付けで捕獲場所の適否を確認する。
2. ライトセンサスは、ハンディタイプかつ高輝度（1,000 Lumen 以上）のLEDライトやサーチライトを用いると、シカの判別が容易。
3. ヘイキューブは30kgで3,000円程度。
4. シカ捕獲の際、誘引エサとして一般的に用いられている米ぬかは、イノシシと競合するため、誘引エサはヘイキューブを使用する。
5. 森林地域におけるシカ捕獲場所は、新植地が適しているが、季節間で差があるため、捕獲時期は5月～9月にかけて行うこと。

[具体的データ]

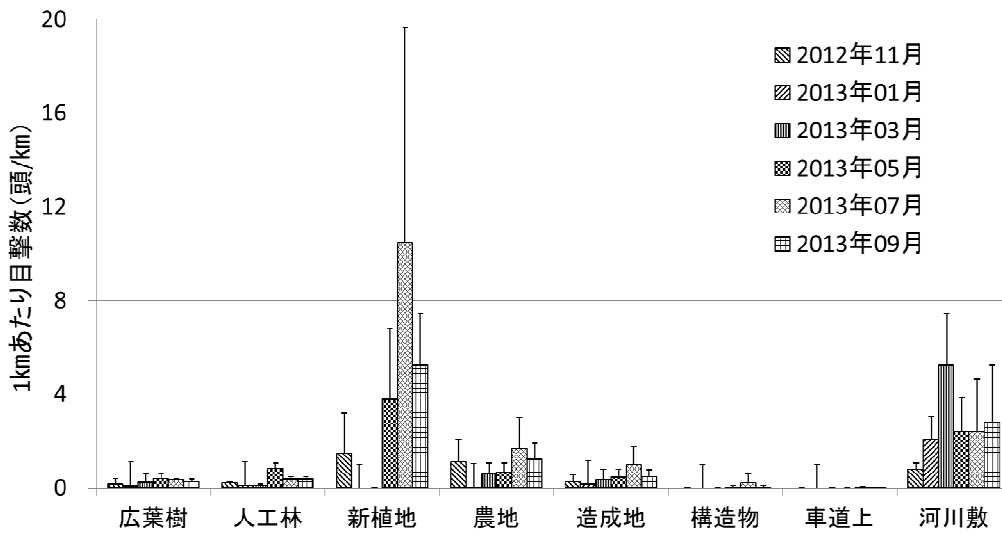


図1 西牟婁地域のライトセンサスにおける地目別のニホンジカ目撃数

注) エラーバーは標準偏差を示す

調査方法：ライトセンサスは H24 11 月～H25 9 月に 18 回（隔月 3 回/月）実施した。決まったルート（田辺市～白浜町～上富田町、H24 は 41.3km、H25 は 31.6km）を、日没 1 時間後から時速 10 km 程度で走行する自動車から LED ライト（光量最大 1,000lumen）を用いて目視で探査した。地目は 100m おきに目視で占める割合が高いものに分類した。

注) 広葉樹はアカマツ林・竹林、農地は耕作放棄地、新植地は伐採跡地を含む

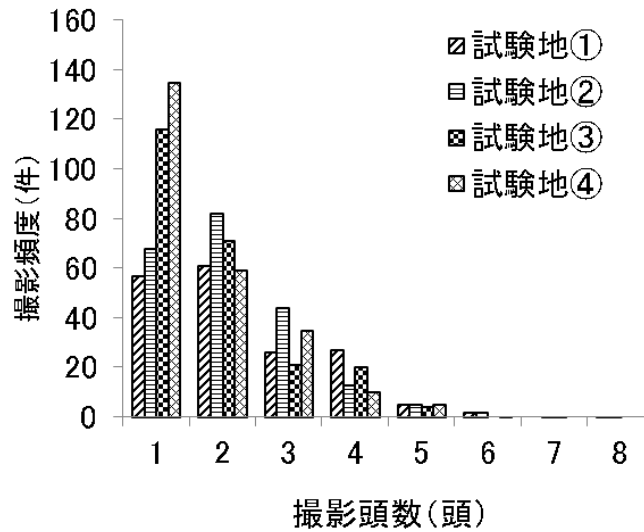


図2 ニホンジカのエサ試験において同時に撮影された頭数の割合

注) 使用エサ：ヘイキューブ, 米ヌカ

[その他]

研究課題名：難防御獣類の安全で効率的な捕獲手法の開発

予算区分：県単

研究期間：平成 24～26 年度

研究担当者：大谷栄徳、山下由美子

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可